

編 集 後 記

今年の群像新人文学賞を受賞した「ジュエードロップ」という作品をご存じでしょうか？複雑な家庭事情をもつ2人の女子高校生の心の触れ合いや家族との葛藤を描いた現代小説ですが、主人公が持病として前兆のある片頭痛を抱えているという設定です。「光が視野を侵食していく」や「雨垂れからゲジゲジにメタモルフォーゼした光」といったように細かく描写された閃輝暗点と頭痛発作は、主人公に不安を与えると共に物語に暗い影を落とします。かの芥川龍之介も「歯車」の中で「歯車は次第に数を殖ふやし、半ば僕の視野を塞ふさいでしまふ、が、それも長いことではない、暫らくの後には消え失うせる代りに今度は頭痛を感じはじめる」と前兆のある片頭痛発作について書き記しています。この発作も主人公にネガティブな影響を及ぼしたようで、物語の後半の場面では、つい不適切な言動を取ってしまい高名な漢学者から勘気を被ってしまいます。閃輝暗点という特異な現象は多くの人の関心を引いてきたことが分かります。19世紀に活躍したシャルコーは閃輝暗点

を次のように描写しています。“*On voit se manifester, dans le champ visuel, une figure lumineuse, d'abord circulaire, puis demi-circulaire, en forme de zigzag, ou de dessin de fortification, agitée d'un mouvement vibratoire très rapide, image tantôt blanche, phosphorescente, tantôt offrant des teintes jaunes, rouges ou bleues plus ou moins accentuées.*” 「視野の中に光る物体が現れて、最初は円形で続いて半円形となる。ジグザグあるいは城塞の輪郭の形態を呈し、非常に速く揺れ動く。像は時に白く発光性で、ある時には黄、赤、あるいは青の強弱の変化のある色調を放つ。」と非常に躍動感のある表現です。また、“zigzag”という言葉が19世紀の神経学者の間でも用いられていたことは、筆者にとって新たな発見でした。「臨床神経学」には優れた症例報告や研究報告が掲載されていますが、臨床的事実だけでなく、その時代ならではの空気も後世の読者に届けて欲しいと思います。

(柴田 護)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 小野寺 理 編集副委員長 三澤 園子
 編集幹事 石浦 浩之 漆谷 真 杉江 和馬
 編集委員 今井 富裕 木下 真幸子 古賀 政利 櫻井 圭太 柴田 護
 下畑 享良 鈴木 匡子 辻野 彰 坪井 義夫 中嶋 秀人 新野 正明

「臨床神経学」 第63巻 第10号 2023年10月1日発行
 編 集 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発 行 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 西 山 和 利
 印 刷 所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 経 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>